



—東地中海地域ニュース—

トルコ：米国総領事館に対する襲撃事件

(7月9日付現地報道)

9日、午前11時頃、イスタンブール市内サリエル区イスティンイエにある米国総領事館前に、白色車両に乗車した4名のテロリストが接近し、警備警戒中の警察官に発砲した後、双方銃撃となった。午後12時30分現在、この銃撃戦で警察官3名及びテロリスト3名が死亡し、2名の負傷者（警察官及び運転手）が出ている。テロリスト1名を乗せた車は逃走中で、治安当局により現在捜査中である。

上記襲撃事件を受け、関係各要人のコメントは下記のとおり

1. ベシル・アタライ (Besir ATALAY) 内務大臣

在イスタンブール米国総領事館前で発生した襲撃事件により、警察官3名及び“テロリスト”3名が死亡した。テロリストが使用し、事件直後に闘争した車両を。現在治安当局が操作中である。

2. ムアッメル・ギュレル (Muammer GULER) イスタンブール県知事

9日午前11時頃、米国総領事館正面玄関に通じるチェックポイントにおいて、車両に乗車して接近したテロリストにより、警戒中であった警察官3名が殺害された、死亡したテロリストはすべてトルコ人であった。事件の背後関係及び動機については現在捜査中である。また、現場においてテロリストの銃及びライフルを押収した。

3. ロス・ウェイルソン (Ross Wilson) 在トルコ米国大使

米国総領事館に対して行われたテロ行為を非難する。事件の前には本件に関する脅威情報に接していなかった。(事件はエルゲネコンと関係しているのではとの問いに対し) 同組織と関係があるとは考えていない。トルコとの友好関係は今後も継続する。殉職した3名の警察官に対し深い哀悼の意を表する。